

研究主題 広げよう！ 人とのかかわり 豊かな心

～児童文化手法を活用して～

I 団体の概要

東京都小学校児童文化研究会は、昭和35年に発足した。以来、長年にわたり、豊かな創造性や人間性を養うため、楽しい授業づくりの研究を行ってきた。具体的には、児童文化の手法を用い、児童の興味・関心を引き出しながら、集団活動の楽しさや素晴らしさを体験させることをねらいにして実践を積み重ねてきた。

今年度は、以下の組織により、6つの専門性を発揮しながら実践研究を行っている。

- | | | |
|--------|------------|---------|
| 1 学校劇部 | 2 童話部 | 3 ゲーム部 |
| 4 ダンス部 | 5 パネルシアター部 | 6 総合表現部 |

II 研究主題について

研究主題を達成するために大切なのは、コミュニケーション能力の育成である。児童文化手法には、こうした力を高める実践が様々ある。児童一人一人が自己表現を行いながら、学級や学年、班で一つの劇を完成させる「学校劇」や「劇あそび」、集団で行う「ゲーム」の実践、教師が自分の持つ得意表現分野を生かして授業を創る「総合表現」等である。これらの手法により、友達とともに創り上げる達成感や楽しさの共有体験を味わわせ、友達同士の「かかわり合い」を深め、豊かな学級集団を育てることができる。また、授業の導入や展開時に「遊び」的な要素を取り入れ、児童の学習への興味・関心を引きつけることも児童文化手法の重要な要素である。紙芝居や挿絵をさら

に工夫した「パネルシアター」の手法や、素話を用いながら児童を教材の世界に引き込む「童話」の手法、また、「ダンス」を行うことにより身体全体で表現する体験は、児童に学習の楽しさを味わわせ、その「心地よさ」がさらに児童の「学びへの意欲」を生み出す。こうした実践の中で、「児童の心を掴んで離さず、学びに結びつける授業づくり」をめざしている。

以上のように、児童文化手法を活用した授業を実践することで、児童のコミュニケーション能力が向上し、周りの人との関わりが豊かになり、「主体的・対話的で深い学び」が可能となるであろうと考え、本研究テーマを設定した。

III 年間計画

- ・定期的な研究会
第一回公開授業（総合表現部）特別支援学級
生活単元学習 単元名（活動名）「もっと友達のことを知ろう」
第二回公開授業（学校劇部）1年1組
市民科（道徳） 単元名（活動名）「こまっているともだちに」
第三回公開授業（童話部）2年1組
市民科（道徳） 単元名（活動名）「『あいさつ』って、すごい」
- ・実技研修会（学校劇部）
- ・東京都小学校児童文化研究会研究発表大会

Ⅲ 実技研修会

夏季休業中に、児童文化的手法を用いた学校劇について研修会を行った。各学校で行われている学芸会や学習発表会について、それらの基本的な進め方、児童の動きを引き立たせる演出や効果的な舞台設備の活用に関する講座、実際の脚本を舞台化する講座を2日間行った。2日間で約100名の教員が参加した。一つの脚本を演劇として上演するためのプロセスには、一定の決まりが存在することを確認するとともに、参加した先生方が演劇の指導法を学ぶことができた。

受講者アンケートの結果から、児童への指導に生かしたいという意見が多くあった。研修会の中で行った講座は以下の通りである。

- ・学芸会のためのシアターゲーム講座
(学芸会を成功させるために配慮したこと)
- ・学芸会のためのスタッフワーク講座
- ・脚本講座「きらめき商店街ラブソディ！」
- ・脚本講座「ラシードの冒険」



Ⅳ 研究発表大会

コロナ渦で、3年間、研究発表大会を実施することができなかったが、今年度は研究主題に沿って実施する。

第35回 全国公立小学校児童文化研究会研究発表大会

第57回 東京都小学校児童文化研究会研究発表大会

1 日時・場所

令和5年2月7日(火) 品川区立浅間台小学校

2 内容

○公開授業(6学級)

○実技研修会

(学校劇・童話・ゲーム・ダンス・パネルシアター・総合表現)

○記念講演

講師：劇団「柿食う客」演出家 中屋敷法仁氏

<連絡先>

団体名		東京都小学校児童文化研究会
代表者	所属	葛飾区立南綾瀬小学校
	職氏名	校長 宮内 和彦
	連絡先	03-3602-9597
事務局	所属	品川区立浅間台小学校
	職氏名	校長 高橋 健一
	連絡先	03-3474-2727